

道づくりに関わる地域との協働とコミュニケーション

小川智弘*

1. はじめに

静岡国道事務所は、静岡県中部・東部地域の国道1号ほか5路線約240kmの道路管理及び静清バイパスをはじめとする改築事業を実施している。これらの事業を通じて地域のみなさまとのコミュニケーションを深め、これからの道づくりの手法として、いろいろな事業に協働の試みを展開し、「道づくり」「地域づくり」を地域のみなさまと一緒に考えているところである。本報文において、当事務所で実践している地域との協働や、コミュニケーションの取り組み事例を報告するものである。

2. 取り組みの内容

2.1 道のコミュニティカレッジ

NPOとの協働により、市民が道への関心や道路整備等への理解を深めるための講座（エクスカージョン）を一般公募により開催するものである。

- (1)道路の整備状況や道路にまつわる文化・歴史を学ぶための講座を開催している。



図-1 講座の開催

- (2)講座の対象となる道路をウォーキングし、意見交換を実施することで、参加者からは、道の歴史や文化に対してより関心が高まるとの感想をいただいている。



図-2 薩埵峠をウォーキング

2.2 プチメンテナンス

NPOとの協働によりワークショップを開催し、市民が中心になって道路上にある施設の簡易な修繕を行う仕組みづくりを検討・実施するものである。

- (1)ワークショップでは、活動目的・内容、ルールづくり、実施箇所の企画、検討を実施した。



図-3 ワークショップの様子

- (2)現地で実際に簡易な補修や塗装を行ってみるなどプチメンテナンスを実施している。参加者からはまちをきれいにする意識が芽生え、道路に愛着を持ると感想をいただいている。

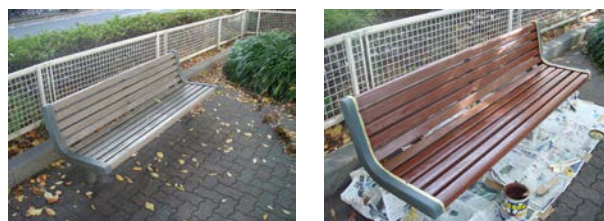


図-4 木製ベンチの整備（左：塗装前、右：塗装後）

2.3 朝霧地区景観ワークショップ

NPO、有識者、自治体及び地元企業等の参画による道路景観形成ワークショップを開催し、道路景観などの向上を契機とした地域のイメージアップ、富士山等の自然資源を活用した地域活性化策について検討をしている。



図-5 散策モニタリング

部会として二つに分かれ、「拠点活用部会」では道の駅を拠点とした散策マップ等の情報発信について討議し、「看板サイン部会」では路上の看板について、先進取り組み事例のある地域（長野県木曾地域ほか）を訪問して、朝霧地区に相応しい沿道の看板のあり方や仕組みづくりについて討議をしている。

2.4 手越原(てごしはら)地区交通安全対策勉強会

国道1号静岡市手越原交差点で顕在化する交通事故等さまざまな問題に対し、地域と行政の共通認識のもとで、安全・安心な交通環境の確保に向け、協働作業により「手越原地区の改善を目指した提案」を作成したものである。



図-6 作成された提案書

2.5 清水駅前交差点ワークショップ

市民団体等との協働でワークショップを開催し、静岡市清水駅前の交通事故軽減に寄与する交差点の視距改良等改善検討を行ったものである。



図-7 ワークショップの様子

ワークショップの検討を基に、交差点部の見通し確保を目的とし、修景も加え、巻き込み部の車道側に設置されている壁面の改修、植栽の撤去、ガードレール等の整備を実施したものである。



図-8 壁面改修、植栽撤去（左：改修前、右：改修後）

2.6 しずマチワークショップ

JR静岡駅前交差点のコンパクト化により生じたスペースを、市民参加のワークショップによる検討をもとに、待ち合わせ場所の設置及び地下道のリニューアル等の整備計画を策定した。一般公募により「しずマチ」という愛称も決定した。



図-9 待ち合わせ場所の設置



図-10 地下道のリニューアル

しずまちの知名度の向上、市民参加、賑わいや交流の創出を図るため、ワークショップ、「道の日」のイベント、花壇の整備、清掃活動等を実施している。



図-11 道の日イベント

2.7 みんなの「道の勉強会」

道づくりについて活動している市民団体が主催する勉強会の活動支援を行うものである。

- (1)有識者や道路行政に携わる担当者等を招いて講演会やディスカッションを実施しているもので、市民主催の市民を対象とした勉強会である。



図-12 講演会やディスカッションの様子

- (2)現地視察や意見交換会も実施している。



図-13 現地視察

2.8 国道52号歩道整備ワークショップ

これまで歩道整備が困難であった地区（現道区間）においてワークショップを実施し、歩道整備計画について検討している取り組みである。

- (1)地域住民と行政による検討会を開催し、安全確保に係る認識共有、必要歩道幅員のあり方、緊急性の高い事業箇所の抽出、対策について検討を行っている。



図-14 原寸大模型を用いた歩道空間体験の実施

- (2)検討会の成果を受けて静岡市清水区小島（おじま）・但沼（ただぬま）地区においてさらにワークショップを開催し、地域にあった歩道構造、整備手法を検討している。



図-15 歩道整備状況（左：整備前、右：整備後）

2.9 みんなにやさしい道づくりワークショップ

沿線住民や車いす利用者、視覚障害の人などの道路利用者による「みんなにやさしい道づくりワークショップ」を開催した。ここでは、試験施

工による体験を通して利用者の意見を反映させた整備方針を決め、それに基づき「地域で考えた歩道整備」を国道1号静岡市内で実施している。



図-16 試験コースを体験し、段差や勾配を確認

2.10 道路工事ふれあい見学会

開かれた工事現場を目指し、市民との双方向コミュニケーションを意識した工事現場の見学会を開催している。小学生を中心としたグループを対象に、楽しみながら工事の目的や道路の役割について理解を深めていただくためのプログラムの工夫をしている。



図-17 見学会の開催

2.11 静岡市自立移動支援プロジェクト

障害者や年寄りも安心して移動できる街づくりをめざし、IT（情報技術）を用いた「静岡おもいやりナビ実証実験」を開催した。国土交通省と静岡市の連携に加え、自治体、警察、鉄道、障害者協会等と協力して実験を実施している。



図-18 実証実験

平成19年11月に静岡市で開催された国際アビ

リンピックにおいてはデモ実験を実施した。



図-19 国際アビリンピックでのPR

3. まとめ

これらの事例のように当事務所では、計画段階からの地域住民とのコミュニケーションや協働を通して道づくりを行っている。現道区間での歩道整備の事例のように、ワークショップの開催を通して市民に歩道の必要性を十分認識していただくことで、結果的に事業推進につながる事例もある。それだけでなく、広く道路の整備効果等を理解していただく取り組みも併せて実施していくことで、住民が「道づくり」「地域づくり」を自ら考え、地域住民と行政が共に「地域の将来」を考えていくよきパートナーとなっていくことを目指している。

小川智弘*



国土交通省中部地方整備局
静岡国道事務所長
Tomohiro OGAWA